

## 「合成燃料研究会」について

令和 3 年  
資源エネルギー庁  
資源・燃料部石油精製備蓄課

## 1. 設置目的

2050 年カーボンニュートラルに向けて、運輸部門においても脱炭素化が求められる中、カーボンリサイクル技術を活用し、CO<sub>2</sub> と水素を合成して作る「合成燃料」が注目されている。

合成燃料は、SS など既存の燃料サプライチェーンや既存の自動車エンジン（内燃機関）で活用可能なことから、既存の液体化石燃料の代替品として期待されており、海外でもその製造プロセスの確立に向けた研究開発・実証等が進められている。

合成燃料がグリーン成長戦略に位置付けられたことを踏まえ、合成燃料の導入に向けたタイムライン、コスト低減のための技術的課題、今後の研究・実証体制などを明確にするため、石油業界、自動車業界、大学教授等をメンバーとした研究会を設置する。

## 2. テーマ

- ・ 合成燃料の定義、製造方法・プロセス、メリット、諸課題について
- ・ 合成燃料の海外の動向、政策の方向性、今後の研究・実証体制について  
等

## 3. スケジュール

- ・ 第 1 回（2 月 18 日（木） 13：30～15：00）
- ・ 第 2 回（3 月中旬）
- ・ 第 3 回（4 月中旬）

## 4. その他

- ・ 本研究会は、参加者の自由な議論を担保する観点から、一般からの会議の傍聴は行わないこととする。
- ・ 個別の事情に応じて、配布資料及び議事概要の全部または一部を公表しない場合がある。
- ・ 研究会の事務局は、石油精製備蓄課が行う。